

ミズナ小～中株どり栽培マニュアル

① 生理、生態的特性と作型

1. 「みずな」は冷涼な気候を好み、生育適温は10～25℃くらいです。
2. 土質は特に選ばないが、保水排水条件のよい肥沃な圃場を選定します。
3. 作型は夏まき年内～早春どりの大株栽培と周年出荷の小～中株栽培があり、近年後者が増加しています。
4. 小～中株どりは年間5～6作の連作となるので有機質の投入による土づくりを心がけ、連作障害を回避します。
5. 周年栽培の場合雨除けハウスを利用し、冬期はビニールで保温を、夏期は換気に努め、寒冷紗による遮光を行います。
6. 肥料は元肥を中心として三要素各10kg/10aを基準とし、夏期は各6～8kg/10a、冬期には各10～12kg/10aを目安とします。
7. 二作目以降の施肥は土壌診断結果により加減します。

② 圃場準備

完熟堆肥、有機質肥料、苦土石灰を施用して耕起し、うね幅120～150cmにうね立てします。ハウス内が乾燥している場合は十分灌水の上、耕起することが大切です。

③ 播種

播種は、直まき（シーダーテープ種子封入間隔5～7cm×1粒）が一般的ですが移植（299穴トレイ育苗、本葉4～4.5枚定植）も可能です。条間は10～15cmでうね6～8条とし、夏期及び抽苔危険期は広めにします。

④ 灌水

播種後、寒冷紗で被覆し灌水チューブを使用して均一に灌水し、一斉に発芽させます。灌水の目安はうねの表面下10～15cmまで水が行き渡るよう十分行います。その後は控え目に管理します。収穫予定の10日前には灌水を停止し乾燥気味に管理することで収穫時の調整をしやすくし、出荷後の棚持ちをよくします。

⑤ 病虫害防除

「みずな」は生育期間が短く適応農薬も少ないのでハウスのサイドやドア、換気窓に防虫ネットを張り害虫の浸入を防ぐとともにハウス内は常にきれいにすることを心がけ、雑草が繁茂しないよう注意するなど耕種的防除に努めます。主な病害はタチガレ病、ナンブ病、ネコブ病、ベト病、ハクハン病、シロサビ病等で害虫はキスジノミハムシ、コナガ、アブラムシ、アオムシ等が発生します。各地の防除基準に従い生育初期の予防的散布を基本とします。

⑥ 収穫までの管理

ハウス内の温度管理は15～25℃を目標にします。夏期栽培（5～10月）ではサイドのビニールは全開とし、できるだけ涼しく管理し、雨水がハウス内に入らないよう注意します。

冬期栽培は不織布等の被覆資材を使用して保温に努め、抽苔防止と生育促進を図ります。一般的に「みずな」は発芽後5℃以下の温度で15～20日で花芽分化します。

12～2月の播種では、極端な密植栽培は避け、肥料切れに注意し、計画的な播種を行い収穫遅れにならないようにすることで抽苔を軽減します。

⑦ 収穫、調整

1. 収穫は収穫位置のハウス屋根に遮光ネットをかけ、できるだけ涼しくして行います。
2. 高温期の収穫はしおれやすく、鮮度が低下しやすいので、なるべく早朝に行い、予冷库などの活用により鮮度を維持します。
3. 収穫の目安は夏播(5~9月)で23~30日、冬播(12~2月)で60~70日です。
4. 草丈が28~33cm(M級)位になれば順次収穫を開始します。病虫害の無い株を、泥や老化葉を除き根部を根際から切断し、出荷規格に合わせてボードン袋に入れます。(水洗いは絶対しない様にします。)

周年栽培におすすめ播種時期

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地	京のれん・水明					京のれん・水明						
						夏白泉・京すだれ						
				早生千筋京水菜						早生千筋京水菜		
中間地	京のれん・水明					京のれん・水明						
	京白泉								京白泉			
						夏白泉・京すだれ						
暖地	京のれん・水明					京のれん・水明						
	京白泉								京白泉			
				夏白泉・京すだれ								
				早生千筋京水菜						早生千筋京水菜		

ミズナ中～大株栽培マニュアル

① 生理、生態的特性と作型

「みずな」は冷涼な気候を好み、生育適温は10～25℃くらいです。土質は特に選ばないが、保水排水条件のよい肥沃な圃場を選定します。肥料は元肥を中心として三要素各10kg/10aを基準とします。

② 圃場準備

完熟堆肥、有機質肥料、苦土石灰を施用して耕起し畝立てします。ハウス内が乾燥している場合は十分灌水の上、耕起することが大切です。

③ 播種

播種は128穴トレイ育苗とし、本葉4～4.5枚頃に定植します。栽培密度は畝幅130cm、株間40cm、条間は30cmで2条とします。

④ 病虫害防除

「みずな」は生育期間が短く適応農薬も少ないので、雑草が繁茂しないよう注意するなど耕種的防除に努めます。主な病害はタチガレ病、ナンブ病、ネコブ病、ベト病、ハクハン病、シロサビ病等で害虫はキスジノミハムシ、コナガ、アブラムシ、アオムシ等が発生します。各地の防除基準に従い生育初期の予防的散布を基本とします。

⑤ 収穫までの管理

生育期間中の肥料切れは株張りに影響するため注意します。

⑥ 収穫、調整

目安として、収穫開始期は1.5kg/株位で、生育後半で2kg超ぐらいです。病虫害の無い株を、泥や老化葉を除き根部を根際から切断します。

下記標準栽培表参考に貴地の気候に合わせて栽培してください。

